

「研究所所報」原稿投稿の手引き

福岡工業大学総合研究機構「研究所所報」への原稿投稿にあたっては、以下の手引きに従ってください。

1. 所報原稿の取扱い

研究所所報に投稿できる原稿は、以下の2種類とする。

(1) 研究所論文

論文は、未発表・未投稿のものに限る。他学会等に既発表、定期刊行物や単行本として既刊、あるいはこれらに投稿中のものは研究所所報に投稿できない。研究所論文の著作権は研究所に帰属する。

(2) 研究成果報告（レポート）

研究成果報告（レポート）は、適用した研究支援制度等を活用してどのような研究に取り組んだのかを簡潔にまとめたものであり、研究の内容、研究成果、今後の展開等について記載するもので、学会等に帰属している著作権に抵触しない限り作成者が自由に作成して良いものとする。ただし、当該研究分野等で二重投稿や研究不正の疑義を受けないよう十分確認した上で投稿すること。研究成果報告（レポート）の著作権は作成者に帰属する。

2. 原稿執筆の要領

(1) 構成

- ①原稿は、研究所論文については、刷り上がり4～10頁程度とし、研究成果報告（レポート）については、刷り上がり2～10頁程度とする。
- ②原稿の作成にあたっては、A4版の横書き、MS-Wordを用い1頁当りフォントサイズ9ポイント（和文は26字詰め）49行の2段組とし、原則として研究所論文、研究成果報告（レポート）共に、研究所所定のWordテンプレートを使用する。
- ③字体は原則として和文はMS明朝、英文はTimes New Romanとし、半角を用いる。

(2) 表題、著者、所属機関

- ①原稿には表題を書き、改行して著者姓名、続けてカッコ内に著者毎に所属学科名を記載する。
- ②他大学（機関・会社）等に所属する共著者は、共著者姓名、カッコ内に大学名、学部名、学科名（機関・会社名、部局名）を記載する。
- ③著者、共著者の所属は、原則として当該研究を行ったときの所属学科、機関を記述する。現在の勤務先等がこれと異なる場合には脚注に記入する。

例：光ファイバーを用いた-----の開発

山田 公一 （電気工学科）

山田 健次 （九州大学工学部電気工学科）

山口 良雄*） （電気工学科）

*） 現在：○○○○○○（株）中央研究所

- ④③に続けて次のように、タイトル、フルネーム姓名（+所属）を記載する。

例：The Development of Optical Fiber-----

YAMADA Koichi (Department of Electrical Engineering)

YAMADA Kenji (Department of Electrical Engineering, Kyushu University)

YAMAGUCHI Yoshio (Department of Electrical Engineering)

*日本人氏名の英文表記は、姓（大文字）・名に記入方法で統一する。

⑤学内所属の表記は次のとおりとする。

工学部 Faculty of Engineering

- ・電子情報工学科 Department of Information Electronics
- ・生命環境化学科 Department of Life, Environment and Applied Chemistry
- ・知能機械工学科 Department of Intelligent Mechanical Engineering
- ・電気工学科 Department of Electrical Engineering

情報工学部 Faculty of Information Engineering

- ・情報工学科 Department of Computer Science and Engineering
- ・情報通信工学科 Department of Information and Communication Engineering
- ・情報システム工学科 Department of Information and Systems Engineering
- ・システムマネジメント学科 Department of System Management

社会環境学部 Faculty of Socio-Environmental Studies

- ・社会環境学科 Department of Socio-Environmental Studies

教養力育成センター Center for Liberal Arts

大学院工学研究科 Graduate School of Engineering

(博士後期課程 Doctor's Program)

- ・物質生産システム工学専攻 Material Science and Production Engineering
- ・知能情報システム工学専攻 Intelligent Information System Engineering

(修士課程 Master's Program)

- ・電子情報工学専攻 Information Electronics
- ・生命環境化学専攻 Life, Environment and Applied Chemistry
- ・知能機械工学専攻 Intelligent Mechanical Engineering
- ・電気工学専攻 Electrical Engineering
- ・情報工学専攻 Computer Science and Engineering
- ・情報通信工学専攻 Communication and Information Networking
- ・情報システム工学専攻 Information and Systems Engineering
- ・システムマネジメント専攻 System Management

大学院社会環境学研究科 Graduate School of Socio-Environmental Studies

(修士課程 Master's Program)

- ・社会環境学専攻 Socio-Environmental Studies

福岡工業大学短期大学部 FIT Junior College

- ・情報メディア学科 Department of Information and Multimedia Technology

(3) Abstract (英文要旨)

- ・英文で 100Words 程度にまとめて記述する。
- ・Abstract は、客観的に述べたいことを重点的に記し、常識的内容を排除し、簡潔で明確な表現とする。
- ・標題の繰り返しを避け、一人称を使わず記述する。
- ・主題の取扱いを明示する。

(4) Keywords

Abstract の下に 1 行空けて、keywords を英語で 3~5 個程度記述する。
関連の学会その他学問領域が定めるものに準じて記述する。

(5) 本文

①記載内容

(i) 研究所論文

- ・本文は論理的かつ明確な構想に基づいて記述する。
- ・研究を行った理由、これまでの研究との関連性も記述し、使用した手法とテクニックは再現可能となるように記述する。
- ・文章は平仮名混じりで、常用漢字、アラビア数字を使用する。

(ii) 研究成果報告（レポート）

- ・研究の内容、研究成果、今後の展開等について記述する。
- ・学会等に帰属している著作権に抵触せず、当該研究分野等で二重投稿や研究不正の疑義を受けないよう十分留意して記述する。
- ・文章は平仮名混じりで、常用漢字、アラビア数字を使用する。

②見出しの番号付け

- ・章・節・項は次のようにポイントシステムによって記載する。

例：1. まえがき
2.2 数値解析
3.2.3 実験との比

- ・項以下の細項は (1), (2) …のように両カッコを用いて細分する。これらを引用する際には、「既に 2.2 節で述べたように (As already discussed at chapter 2.2)」と書く。

③図・表・写真

- ・和文原稿の場合、説明 (Caption) を和英両語で付ける。
- ・番号は通し番号とする。

例：図 1、図 2 (a)、図 2 (b)、図 3/表 1、表 2、(和文原稿の場合)

Fig.1, Fig.2 (a), Fig.2 (b), Fig.3 /Table 1, Table 2, (英文原稿の場合)

- ・グラフィック表現や写真は図に含める。
- ・図、写真は原則そのまま印刷するので鮮明であること。

(6) 謝辞 (Acknowledgement)

謝辞として、適用した研究支援制度の種類と年度を記載する。特に謝辞を設けず、あとがきなどで同様の内容を記述してもよい。

例：本研究は本学〇〇研究所の〇〇年度〇〇研究支援制度により実施したものである。

(7) 参考文献

- ①参考とする文献は、上付きの添え字⁽¹⁾のように表示し、本文の末尾に列挙する。
なお、文献の番号は、原稿1編毎に一貫番号にする。
- ②文献の記載方法は、次の形式を原則とするが、学問分野によって記載方法が異なるときはそれぞれの慣行に従うことは認められる。文献の著者が複数のときは全著者名を記載し、…*et al.*や……等、などの第1著者だけを書くようなことは避ける。
- ③雑誌の場合
以下の例のように、著者名:雑誌名、巻(号)(発行年)頁の順に記載する。
T. D. Xiao, K. E. Gonzalves and P. R. Strutt: *J. Am. Ceram. Soc.*, 76(4) (1993) p.987.
畠中憲之、栗原 進:NTT基礎研究所の研究活動、4 (1994) p80.
- ④国際会議などのプロシーディングの場合、以下の例のように著者名:プロシーディング名、開催地、編者名(出版社、出版地、発行年)、頁の順に記載する。
M. Kaminska, E. R. Weber and C. Jagadish: *Proc. 8th Conf. Semi-Insulating III-V Compounds*, Singapore, ed. M. Godleski (World Scientific, Singapore, 1994) p.327.
- ⑤単行本の場合
和書の場合は、以下の例のように著者名:書名発行所、発行年、頁(引用の場合)の順に記載する。
谷村 功:無線通信工学、コロナ社、平成25年、p. 105.
洋書の場合は、以下の例のように著者名:書名、編者(編者がある場合)(出版社、出版地、発行年)頁と順に記載する。
B. Jaffe, W. R. Cook and H. Joffe: *Pi- ezoelectric Ceramics*, eds. J. P. Roberts and P. Popper (Academic Press, London, 1971) p.136.
E. Podolski and G. Borman : *Plasma Acceleration*, ed.S. W. Kash(Stanford Univ., Stanford, 1990) 2nd ed, Vol.1, Chap.3, p.12.
- ⑥ 雑誌の略記形式は、それぞれの学問領域の慣行に従う。

3. 原稿の提出

原稿は総合研究機構事務室に PDF ファイルでメディア(各自で準備)に記録して提出又は電子メールで送付する。

4. その他

(1)掲載費用は、原則無償とするが、印刷を要する場合は相応の負担に応じること。

令和2年6月19日一部改正
令和3年4月1日一部改正
令和4年10月1日一部改正
以上